



育成会だより 第67号

第95団 育成会 平成18年6月18日
Bグループ幹事 相原恵美

ボーイスカウト横浜第95団
育成会長 吉田昌美
団委員長 作田豊彦

“いのち”

ボーイスカウト横浜第95団育成会
会長 吉田 昌美

三 指

早いもので6月、新緑の季節が過ぎ紫陽花の花が待つ梅雨の季節になりました。素晴らしい四季の映りにあらためて感動を覚えます。日本は良い国だな～と……。しかし、どうなっているのか相次ぐ幼児にまつわる痛ましい事件の発生に心を痛めている人が多く居ることでしょう。

事件の内容は殆んどが悲惨な「殺害」と云う最悪の結末を迎えているのを見ると、いたたまれない気持ちになるのは私だけではないでしょう。特に、ご両親ご家族にとっては想像を絶する悲しみを受ける訳です。二度と起きて欲しくない願いも叶わず再び起きました。5月17日、秋田県藤里町の「小学1年生米山豪憲くん」殺害事件。全貌は今後の捜査を待つわけですが、犯人は何と同じ地域の友達の母親だった。信頼していた友達の母親に殺害された本人もとよりご両親、ご家族の心境を思うと申し上げる言葉も無い。只「安らかにねむりください」と申し上げるのみです。

「いのちの尊厳」とは一体何なのですか？・・・真剣に今一度皆で考え、見直してみる必要があります。「いのち」は「地球よりも重いもの」と例えて云う事もあります。あらためて、家族、友達、職場で「いのち」について語って見ようではありませんか。

野営場で団本部でスカウトの元気な声が聞こえる。各隊の活動も活発になって来ました。気持ちがいいですね。活動を傍観しているとリーダーだった若い頃スカウトと共に野山を駆け巡った情景が思い浮かべられます。「逞しく育ってくれ、幸せな人生を送ってくれ・・・」と心の中で念じます。ご両親が我が子の健やかな成長と幸せを願わない親はいません。少くも勉強が出来なくとも、器量が悪くとも結構です。問題は「人間性」です。「他人をいたわりおもしろい心を持つ人間」、人を己を大切にできる人間「草花をめぐる心の持ち主」、自然に感動をもてる人間に育つことを願っているのです。ボーイスカウト運動の原点がそこにあります。組織を通してこの運動を年代別に活動するのです。指導者も団委員も育成会も一つになって次世代の青少年に大きな希望を託すのです。

このことを可能にするのは、「**ボーイスカウト横浜第95団**」が有って初めて成り立つことです。この組織を維持、存続することは大変です。この組織は関係者全員の所有物です。決して一部の特定する者のものではありません。又、お互いに大きな連体の責任があることを知る必要があります。「如何にして運動の主旨を達成させるか」を……。

さあ～スカウト達と野外に飛び出そう “ みんなで童心に帰って一つになるう ”
2007年ボーイスカウト創立100年・ボーイスカウト横浜第95団創立30年をみんなで祝福しましょう。

弥 栄

ビーバー隊



現在、ビーバー隊のスカウト13人は元気に活動（遊んで）います。

3月は、横浜動物園（ズーラシア）四季の森公園でのこどもフェスタ、鶴見川河川敷での凧揚げをしました。3月5日のズーラシアでは、動物園から特別にボウシテナガザルの赤ちゃんを間近で見ることができました。さらに、像舎まで入れてもらい本当に大きいゾウにスカウトたちは感激していたようです。



26日の凧揚げは、鴨居会館にて作った凧を鶴見川の河川敷で揚げました。凧を揚げるにはちょうど良い風で、みんな上手に揚げることができました。

4月は、16日に緑の募金を鴨居駅改札前で行いました。「緑の募金おねがいしま〜す」と皆大きな声で募金活動をしてくれました。いつものように、一人の募金者に対して5人ぐらいのスカウトが緑の羽根をつけようとして、募金者が驚いてしまう場面がありました。みんなが頑張ってくれたおかげで、10,766円集まりました。4月23日に予定していました、鴨居ウォークラリーは、残念ながら雨で中止となってしまいました。



5月は、お母さんありがとう（母の日のプレゼントづくり）団ラリー、三ツ沢デイキャンプを行いました。14日は、鴨居会館にて母の日のプレゼントとして、石に自由に絵を描いてマグネットを貼り付けた、キッチンマグネットを作りました。お母さんのために一生懸命作ったプレゼントは、最後にお母さんに渡しました。

21日は、団バザーに参加しました。バザーの前には、前日の雨でスーパーボールすくい会場にできてしまった水溜まりの水を雑巾での吸取り掃除をしました。ビーバーの会場ではじゃんけんゲームや、泥ダンゴの作り方を教えてくれたおかげで大繁盛でした。



28日は、三ツ沢公園でデイキャンプを行いました。お父さん、お母さんも手伝ってカレーライスを作りました。飯盒で炊いたご飯は美味しく「も～っと食べたかった」と言われてしまいました。午後からは、三ツ沢公園でウォークラリーを行いました。チェックポイントで、パズルのピースを探したり、ゲームで楽しみました。ちょっと難しい地図は、お父さん、お母さん達の力を借りて、みんな完走できました。



6月は、団ラリーと市ヶ尾で水生生物観察、7月は夏キャンプを行う予定です。ビーバーの活動も最後のステージとなってきました。最後のステージを元気に楽しく遊んでいます。

カブ隊



団バザーでは、カブ隊は割り箸鉄砲作りの体験コーナーをやりました。開店前にはスカウト達も作りました。トンカチ、キリ、ペンチなど手馴れたもの。木のもち手を割り箸に替えてオリジナル作品を作ったりもしました。

「お客さん、来てくれるかな？」という心配はまったく無用でした。続々と人が集まり、あっという間に用意したパーツが品切れ状態。急ぎよ隊長は鉄砲のもち手をナタで切ったり、Kデンリーは割り箸を調達に走ったり。多分100人近く体験してくれたのではないのでしょうか？

受付は、くまスカウトにお願いしましたが、それ以外のことは自分達で考えての行動です。小さい子に作り方を教えてあげるなど、自然にお手伝いできてすてきでした。これからもその心をずっと忘れないでくれるといいなあと思いました。

隊長は5年目の表彰を受けました。(Y)



6月にりすの道を行いました。ビックビーバー5名、体験1名とともにつくし野アスレチックに行きました。最初はお互い緊張していましたが、一緒にトランポリンをしたり、池に落ちたりして、お昼くらいにはすっかりうちとけました。そしてクマスカウトが見本をしめしてカブサインやあくしゅ、けいれい、かぶたいのさだめと一緒にやりました。ビーバーに質問され、制服のチャレンジ章バッジを自慢そうに説明しているスカウトもいて、お互い有意義な活動でした。

9月から一緒に活動できるのを皆楽しみにしています。



カブについてゆくぞ~



さだめはおぼえたかな

ボーイ隊



活動報告

4月

- 1~2日(土日) 14NJ事前キャンプ
- 2日(日) 隊集会
- 16日(日) サイクリング
- 23日(日) 夏キャンプ現調 / 班集会
- 29日~30日(土日) 14NJ事前キャンプ
- 30日(日) 隊集会

5月

- 14日(日) 隊集会
- 20日(土) パザー準備
- 21日(日) 団パザー
- 27日~28日(土日) 14NJ事前キャンプ
- 28日(日) 隊集会

活動予定

6月

- 4日(日) 隊集会(ハイキング)
- 11日(日) 団ラリー
- 17日~18日(土日) 1級挑戦キャンプ
- 25日(日) 夏キャンプ現調



<夏キャンプについて> ボーイ隊 橋本 直樹

僕は、夏キャンプでは色々できなかったことをやりたいです。初級になってできる事をやりたいです。僕は初日のテントの設営が出来ないので、撤収の時のテントをたたむのをがんばりたいです。たたむ時間を短縮して、てきぱきと行動したいです。

料理をする時の衛生管理や野菜を切ったりする時に注意しなければならないことも考えたいです。キャンプで使用する水の量や洗剤の量なども減らして環境にいいこともキャンプを通して学んでいきたいです。設営のときに使うロープワークのトートラインヒッチのやり方も知りたいです。

<夏キャンプでしたいこと> ボーイ隊 小林 大地

僕は、今度のキャンプでしたいことが2つあります。

1つ目は、ロープワークをたくさん教えてもらって完璧にしたいです。そうしたらその後の活動でたくさん役に立つと思います。

2つ目は、テントやフライの設営です。僕はこの前のゴールデンウィークの時、家族でキャンプに行きました。その時テントの組み立て方がわからなかったで、くいを打つだけでした。だからこのキャンプで覚えて今後のキャンプで活かしていきたいです。ぜひ今度のキャンプでこの2つを覚えたいです。

<夏キャンプに向けてやりたいこと> ボーイ隊 鈴木 拓海

夏キャンプでは今までにやった事を活かして活動したいです。

たとえば、ロープ結びなどです。新しい結び方や遊びなどをできるようにし、実際にその結び方をやるとなった時に出来るようにして、下の人にも教えられるようにしたいです。

他には工作です。工作はキャンプのときに活用できるような物を作りたいです。そうすれば時間にも余裕が出来て、遊ぶ時間や寝る時間が出るからです。他にもシルバーコンパスや料理などもやってみたいです。そして普段の活動でもできるように活かしていきたいです。

<夏キャンプに向けて> ボーイ隊 菅原 裕貴

僕は夏キャンプで楽しみにしていることは、登山とハイキングです。自然の中を歩くのが好きだからです。

それからキャンプに行行って取れるターゲットバッジを取れるようにがんばりたいです。

キャンプに行ったら僕が大変だと思うことがいくつかあります。どうしたら大変じゃなくなるかを考えてみました。

1つ目は、早起きしないといけないことです。これはがんばって起きるしかない！

2つ目は、テントを組み立てることです。これはみんなで協力してうまく張れるように練習したいです。

3つ目は、テントで寝る時狭いのでテントを2つにして分かれて寝るようにしたいです。

<夏キャンプについて> ボーイ隊 相原 雄人

僕はボーイ隊になってから2度目の夏キャンプです。

しかし、初級の小林、橋本スカウトはボーイ隊での夏キャンプは初めてです。だから僕は2級スカウトとして2人のスカウトにしっかり教えてあげたいと思います。

僕は今、学校の部活などで忙しいけれどなるべく夏キャンプには行きたいです。それに僕は、去年は2日目から参加したので今回は初日から参加出来るといいなと思っています。

僕は2級になってナイフを使えるようになったので、去年やったフォークとスプーンをまた作りたいです。

それともひとつやりたいことが釣りです。僕は釣りをしたことがあまりないので、ボーイでいつかやりたいと思っていました。もし川などがあり、釣りが出来る機会があるとうれしいです。

またバザーで得た利益を少し使って夏キャンプの夜食を豪華にして食べたいです。あまり僕は普段の活動にでないでないので、もし夏キャンプに行けることになったら、1級の班長に教えてもらって2級スカウトに色々教えてあげてベストをつくしてキャンプをしたいと思います。

ベンチャー隊



ベンチャー隊24年間カラーチーム参加し続けて・・・

「最後のカラーチームを終えて」 泉 龍太郎

今回のカラーチームはスカウトとして出られる最後の年でした。高校3年生で受験の年でもあり、最初は参加するかどうか迷っていたけれど、結果的には参加してすごく良かったと思いました。班長の年代でカラーチームに来て最初の活動では人数が少なくすごく不安になったが2, 3回活動する内に人数もギリギリそろい始め、やっと本

番に望める気がしました。自分はドラムを選びスネアドラムをたたき事になりました。小机城址は、けっこうみんなスムーズに覚え演奏できたのに対し、みなと祭り本番の演奏はけっこう難しくなかなか合わなくて焦りました。けれど、リハーサルを終えてみんなの集中力も高まってきてだんだんと合うようになりました。そして本番当日を向かえ、少しあわただしかったけれど最後の演技をして本番を終えられたと思いました。

最初は、みんな初めて会った人が多く息があわず生活面でもスムーズにいかない事が多かったけれど、合宿を重ねるにつれて、みんな率先して動くようになってきたし、かたづけやそうじもスムーズに終わるようになっていて、チームワークがすごい高まっていたのを感じることができました。

今まで3年間カラーチームをやってきて今回もすごくいい思い出を作ることができました。

今まで支えてくれてありがとうございました。



「カラー本番をおえて」 豊福 宏昌

昨日、港祭り本番が終わった。今期の活動を振り返ってみると、色々なことがあったと思う。僕は、今期カラーの活動には、例年のことながら部活の最後の演奏会があったので第三回目の合宿からの参加だったのですが、演技に関して言うと、ドラムはすごい大変だな～という印象をうけていたと思います。人数はなかなか集まらないので、練習がなかなか進まない事がほとんど毎回、本番1週間前にして全員集まって練習したのですが、初合宿なみのレベルのもので焦りましたし、本当にどうしたらいいのかわからなくなってしまいました。毎週ここを良くしようと思っても、練習不足なので、どうにもならなくて時間ばかり過ぎてしまい、結局そのまま本番に突入してしまいました。

港祭本番は、緊張のせいも、たくさんミスがあったので練習でできていなかったことが後悔されたことです。自分は今年班長だったのですが、班長として何をしたらいいのかわからず、たくさん怒られてしまい、班員にも迷惑をだいぶかけたと思います。でも、今思うと班長になれて良かったと思います。なぜかと言うと班長をやった事によって班長同士の“kizuna”が固まったと思うからです。

今年でスカウトとしてカラーの活動に参加出来るのは最後だったので、気合をいれていこうと思っていたのに、班長の仕事や、班員の世等々で演技は自分の作りたいもののがつくれなかったのが残念でしたが皆でがんばって1つの演技を作ろうと毎週集まった事はこの先の人生で良い宝となるのだらうと思います。今カラーの活動に参加して本当に良かったです。

「最高の感動」 保木 悠

今回のカラーチームはスカウトとして最後の年でした。今までのカラーチームの中で一番良い都市だったと思いました。

三月二十日、自分が部活で遅刻して行くと見たことのない顔の人が少しオドオドした様子で班の名前を決めていた。テーマは「オリンピック」いろんなアイデアが出ていたがこれとしたいものがなく、最終的にアイデアから合体されたものに決まった

第二回目合宿、小机の本番が近くみんな演技を覚えるのに精一杯の様子だった。小机城址はその結果かなりいいものに終わることができました。小机城址の反省を胸に本番への道が見えてきました。練習もみんな全力でとり組んでいて今年は絶対にカラーチームとして一つになることができると感じていました。

五月三日、みなと祭本番。朝から少し慌ただしい様子のみんなでしたが、今までやってきた練習を胸に本番への意気込みも十分という感じでした。チクサクコールをやった瞬間なにかに解き放たれたように出発しました。ゴールまでは一瞬の夢のような時を感じることができ、ゴールして胸上げしたときは体中で感動するということを味わう事が出来ました。大変なことも少しはありましたが、チームとして一つになれたので最高のものとして終わる事ができました。

「カラーチームの感想」 米沢 翔

今回は、2年目だったので、初めてのキャンプの時、昨年カラーチームと一緒にいた人たちに久しぶりに会い、なつかしかったです。最初のキャンプは学校があったので2回目からしか出られなかったのですがその時は知り合

いとかしか、話すことができなかつたです。

その次の合宿では2,3年目が少なく大変でした。その次の活動は小机の本番で演技をまちがえてしまいました。次の次くらいの合宿で本番ポジションが発表され自分の位置は緑の2番だったのでちょっとショックでした。本番の演技は2種類あり、覚えるのが大変で、失敗ばかりしてしまいました。合宿も後半になってくると、1年目のスカウトとも話ができるようになり、演技もそれなりに覚えてきて良くなってきました。そしてリハーサルでは、雨が降っていたので野活のホールでやることになり、あまりリハーサルという感じがなかったけれど本番さながらの緊張感をもってやることができました。

そして五月三日みなとまつり本番、あまり失敗する事無く出来たと思います。そして、三ツ沢に帰ってきて、夕飯を作り、食べ、スタンプをし、寝て起きて朝食を食べ、記念品をつくり、この感想文を書いています。今回は2年目だったので教えてもらうだけでなく、教える立場になり、その大変さがわかりました。



「24期みなと祭りパレードを終えて」 VS隊長 吉田 昌司

毎年恒例の様になっているカラーチームですが毎回色々なドラマがあります。スカウト達の思い又、リーダーの思いが練習を重ねる度にその距離が短くなり最後には参加して、やってみて良かったと思う訓練だと思えます。たしかに学校では部活動もあるかもしれませんが横浜地区から沢山の同年代スカウトが終結し生活面から叱られたりして悔しくなったり気がめいったりもして一つの演技を覚えパレードに参加し発表をしています。私は、24期以前に2回ほど港祭りのパレードに参加しましたが今ほどの演技もしていなかったと思えます。目標を持って達成し皆で努力した結果を褒めあって自分の人生の思い出になりやる気や人を思いやる心をつかめたらそれで良いと思えます。短期間で練習して参加した皆が、満足感を味わえたのではないかと思います。

ローバー隊



「ローバー隊活動について」 ローバー隊長 吉岡良一

三指

日ごろローバー隊の活動にご支援、ご理解を頂感謝申し上げます。

ローバー隊の活動は、5月団バザーでの夜警、RS隊ブースでの販売、準備設営を行いました。また団ラリー、猿島でのラリーを実施する為の下見、プログラム作りを行い実行委員会の主要メンバーとなりその準備を進めました。

自隊の活動は、夏キャンプに向けて毎週平日の晩に隊集会を開いて隊キャンプに向けて準備作業、計画書の作成にとりかかっています。

また横浜地区活動への奉仕として、95団として横浜地区カラーチームリーダーとして高橋RS副長、中村VS副長、菅RSスカウト、豊福RSスカウト、伊藤スカウトを指導者として派遣しスカウト活動の啓蒙に尽力しております。今年は、富山県にて8月開催の第14回日本ジャンボリーへの参加、また10月には、横浜アリーナにて開催のマーチングバンドフェスティバルと山下公園にてインド・ディワリ祭、11月の地区ラリーとなっています。ウッドバッジ研修所に6月、近藤スカウトと串田スカウトが参加し山中野営場で有意義なBS研修を受けて戻っております。

最後になりましたが、とても嬉しいお知らせです。6月3日に高橋道人副長の聖婚式が行われ、吉田育成会会長、育成会豊福さん、保木さん、泉さんらと出席致しました。同じボーイスカウト活動を長年ともにしてきた仲間として最大の喜びです。

弥栄

今後のローバー隊活動にご期待ください。